

(様式1)

令和5年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 012	提案機関名 さがみ農業協同組合
要望問題名 後作の有無による転炉スラグがもたらす pH 上昇量の変化と作物への影響	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模 (面積、数量等) 】 綾瀬地区では近年アブラナ科の根こぶ病発生が目立っている。主にブロッコリーと加工用キャベツを市場に出荷しており、面積としては1200aを超える。対策として農薬散布による防除に努めているが成果は好ましくなく、未発生圃場数が減少している。また、農薬の使用コストが年々増加する為、転炉スラグによる土壌 pH の改良での対策を検討している。しかし、転炉スラグによる施用後の pH の上昇程度がわからず、他の作物を栽培する場合と休作した場合で変わるのかどうか、また使用後の維持期間が不明瞭なのが生産者側から懸念されている。また、後作として主にレタスとトウモロコシの栽培が見られるが、土壌 pH を高く維持した場合、生育への影響があるのかといった声もあり、施用に踏み切れない生産者が多い。 生産者の保有する圃場数にも限りがあり、今後避けられない課題として早期の対策として活用できるように、転炉スラグによる pH の上昇程度の確認とその維持期間、ならびに使用後の後作による作物の生育と養分吸収への影響がどのようなものか研究を進めて頂きたい。	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 化学肥料を削減するための土壌管理技術の開発		
対応の内容等	上記試験研究課題の中で、転炉スラグ等による土壌 pH の改善効果の評価を実施します。 なお、これまでに①土壌 pH を 7.1 程度に上昇させた場合、2 作目のキャベツ定植時まで目標 pH6.5 が保持できること、②コマツナおよびキャベツでは減収しないことを明らかにしています (令和3年度試験成績書)。		
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考			